

北九州地区小児科医会会報

講演会・カンファランスの等のご案内

北九州地区小児科医会例会のご案内

※8月は休会です

第9回ワクチンフォーラム（WEB講習会）

日時：2022年9月12日（月）19:00～

特別講演：「コロナ禍における小児感染症の現状と予防接種の重要性について」

演者：神奈川県衛生研究所 所長 多屋 馨子 先生

<事前申込 田辺三菱製薬（株） FAX 093-531-6083>

第578回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年10月20日（木）18:50～20:30

一般講演：小児の舌下免疫療法～よくわかる基礎から臨床まで

演者：小倉さふね病院 アレルギー科 岡部 貴裕 先生

特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最前線

～新たな治療選択肢を生かして～

演者：神奈川県立こども医療センター

皮膚科 部長 馬場 直子 先生

ウェビナー登録先は後日掲載します

その他講演会などのご案内

第448回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年9月22日（木）19:00～

演題1：当科で施行している腹腔鏡補助下胃瘻造設術

演者：北九州市立医療センター 小児外科 亀井 一輝 先生

演題2：重症心身障害児の胃瘻造設と管理

演者：北九州市立医療センター 小児外科 中村 晶俊 先生

遠賀中間内科医会 遠賀中間小児科医会合同例会（WEB 共催）

日時：2022年10月19日（水）18:50～20:30

一般演題：新型コロナウイルス感染症の現状

演者：遠賀中間医師会おんが病院 小児科部長 北島直子先生

特別講演：COVID-19の病態・診断・感染対策

演者：愛知医科大学大学院医学研究科

臨床感染症学 主任教授 三嶋 廣繁 先生

参加登録：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_BP-fbGYPQKyAwR53Zq7JJg

産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

9月はクリニカルカンファレンスとして以下の内容で第14回八幡地区病院小児科合同カンファレンスを開催いたします。

第14回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

日時：2022年9月12日（月）19：00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

テーマ：外科との連携が有用であった事例

演題1. 心不全増悪として転院搬送され、中腸軸捻転の診断で緊急手術をおこなった21トリソミーの新生児例

JCHO九州病院小児科 大村 隼也 先生

演題2. 外傷の初期診療における他科との連携

北九州市立八幡病院小児科 柳原 千秋 先生

演題3. 食道狭窄の2症例

産業医科大学小児科 煙草谷 ひかる 先生

守田 弘美 先生、本田 裕子 先生

※8月はお休み、9月は産業医科大学小児科セミナーはお休みです。

第21回九州・沖縄小児救急医学研究会（WEB開催）

日時：2022年8月20日（土）13:00-18:00 参加費 1,000円

テーマ：「With Corona, With Children」

特別講演：「救急現場における子どもの心の理解と援助

～児童精神科の視点から～」

演者：東京都立小児総合医療センター

児童思春期精神科 田邊 のぞみ 先生

※参加申込はこちら <http://jspeko.peatix.com/view>

第18回小児救急医療ワークショップin 北九州

日時：2022年9月24日（土）25日（日）

場所：AIM3階（現地開催、8月25日まで先着順で事前申込要）

※詳細はHPを参照ください。

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18301262.html>

診療報酬請求書（レセプト）の点検・審査方法が変わっていきます

国の規制改革会議の提言を元に、厚労省・支払基金・国保連合会で種々の改革案が検討され、実行の過程にあります。元々全国組織である支払基金が1年先行する形で行われており、令和7年4月には社保・国保はともに同じ基準で点検・審査されることとなります。

昨年（令和3年）9月から、支払基金ではAIによる点検が始まっています。入院レセプト（出来高、DPCとも）は従来通り「全件目視」で変わりませんが、後述する外来分でAI振り分け機能導入により生じた余力が入院レセプトに向けられることから、入院レセプトの審査もすでに厳しくなった印象をお持ちの医療機関もあるでしょう。さらに入院レセプトにもAIによる点検が加わり、さらに細かい指摘が増えてくるかもしれません。

本年（令和4年）10月から、支払基金はレセプト業務の集約化が行われます。これまで47都道府県それぞれで行われていた事務スタッフによるレセプト点検作業は、全国14カ所の業務センターで集中的に行われます。九州では、熊本県と鹿児島県のレセプトは熊本の業務センターで10年間行われた後、福岡の業務センターに8県分すべてが集約されます。前述の2つの県を除く6県の点検は10月から現在博多区美野島にある支払基金福岡支部内に新設される業務センターで一括して行われます。事務スタッフも転勤してきて事務所の職員は2倍近くに増えます。

医師による審査はこれまで通り各都道府県で審査決定まで行われます。ただし、ローカルルールと称され各県でバラバラだった審査基準も基金本部を中心に取りまとめが進行しています。従来から福岡県の小児科における審査基準は、社保・国保の歴代かつ複数の審査委員の先生方、それも各分野の専門家によって培われたものですから、全国统一の取り決め事項と大きく変わる点は少ないだろうと思っています。また、年に1回ですが、九州各県の小児科審査委員の代表が一同に介して検討してきた九州小児科審査委員連絡協議会での内容も有効に働くのではないかと考えています。しかし、細かいところでは従来だとスルーしていた診療内容が全国基準で判断されると査定となることがあるかもしれません。

現在のAIは「振り分け機能」として点検用に使われています。審査委員（医師、歯科医師、薬剤師）が目視対象とすべきレセプトなのかどうか、という判断です。しかし、考えようによっては問題のないケースではこれで終わりですから「問題なし」と審査していることとなります。審査委員に回ってきた段階ではレセプト1件1件のすべてでAIの判断理由を理解できるわけではありませんが（なんで目視対象なの？というものがないわけではない）、やはり濃厚な診療が行われている医療機関では目視対象の数が多くなり、点検や審査が詳しく行われます。最終的に目視対象は審査機関の全レセプトの10%ほどが目標ですから、審査委員にとってはAI振り分けによって時間的な余裕ができ、その分は目視対象レセプトに集中することになります。

いずれAIが審査を行うようになると、10億枚単位のレセプトから学習した「標準からの隔たり」まで考慮されそうですので、さらに細かい指摘がでてくる可能性があります。ただし、AIの活用が進むにつれて、診療現場へ情報公開できる審査基準も増えてきます。先生方の知りたい情報が分かりやすい形で公開されるまでには少し時間が掛かるかもしれませんが、着々と準備が進められています。大量のレセプトの活用について、健診結果などとリンクさせて国民の健康生活上に大きな役割が期待される一方、2年ごとの保険点数改定や指導・監査などへの活用も行われることとなります。

紙レセプトだけだった時代、「この医療機関はしっかりしているから」と言って、パラパラとレセプトをめくっただけで審査終了の押印、といったこともありました。電子化されたすべてのレセプトが点検の対象となった10年ほど前には、何人かの「優良」診療所の先生方から、「最近厳しくなったねえ、僕は査定されたことがないのが自慢だったんだがね。」、と半ばお叱りの言葉を頂戴したこともありました。AI導入前でも15万項目にも及ぶチェック項目があれば、提出したすべてのレセプトが素通りする方がむしろ不思議なのかもしれません。これに加えてAI振り分け→AI審査と進んでいきます。

対応としては当たり前のことですが、お一人お一人の患者さんと向かい合って、それぞれに必要な診療を重ねていくという方法がベストだと思います。重症や特殊な経過を辿った患者さんには詳記やコメントをお願いいたします。加えて、提出前の点検は念入りに行ってください。コンピュータは忘れませんので、いったん受けた指摘（査定）は反論の余地（再審査請求）がなければ早々に改善するようにしてください。繰り返し同じ指摘を受けるのは得策ではありません。

（福岡県小児科審査委員連絡会）

協議事項・報告事項

- 1) 5-11歳のコロナウイルスワクチン接種に関して、3回目の接種において、集団接種と個別接種で検討中のようです。
- 2) 9月福岡地方会のプライマリケアの座長担当が北九州のため、担当者を検討中です。
- 3) 今年度、福岡県小児科医会名簿の修正を行っています。変更等ある場合は、各地区理事にご連絡ください。
- 4) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について特にありません

<その他の今後のセミナー>

- 第31回日本外来小児科学会年次集会（2022年8月27日（土）28日（日）福岡国際会議場 会頭 稲光毅先生
- 第18回日本小児科医会生涯研修セミナーin 宮崎（2022年10月9日（日）宮崎観光ホテル
- 第54回日本小児感染症学会・学術集会（2022年11月5日6日アクロス福岡 会頭：楠原教授）
- 第28回日本子ども虐待防止学会（2022年12月10日（土）11日（日）福岡国際会議場会頭 小川厚先生

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継
2022年
10月20日（木）18時55分～20時15分
鳥居薬品株式会社 WEB講演会
一般演題：小児の舌下免疫療法～よくわかる基礎から臨床まで
演者 小倉きふね病院 アレルギー科 岡部 貴裕 先生
特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最前線
～新たな治療選択肢を生かして～
神奈川県立こども医療センター皮膚科 部長 馬場 直子 先生

演者： 神奈川県立こども医療センター
皮膚科 部長 馬場 直子 先生

11月1日 大塚製薬：
経口補水療法をもう一度復習しよう
～実はコロナ禍でも活躍していたその実力～
聖マリア病院 鶴 知光先生
その他調整中 株式会社ツムラ
12月 未定
1月 総会
2月 調整中 エーザイ株式会社
3月 未定

その他、COVID-19のため、委員会は行われておりません。